

# 小学部低学年合同音楽 学習指導案

日時：平成 年 月 日（ ）： ～：

場所：小中学部音楽室

指導者： (T1)

(T2)

(T3)

(T4)

## 1 題材名

「たのしいおんがく みんなで うたおう おどろうよ」

## 2 目標

- (1) 音楽が流れている中で、手足を自由に動かしたり、曲に合わせて教師や友達と簡単な身体表現をしたりして楽しむことができる。(身体表現)
- (2) 楽器を自由に鳴らすことで、音色や振動を感じたり、簡単なリズム打ちをしたりすることを楽しむことができる。(器楽)

## 3 児童と題材

### (1) 児童について

・小学部1年生男子 名、2年生男子 名、女子 名、3年生男子 名、計 名の低学年合同の学習グループである。1時間の授業の流れに見通しをもち、自分から積極的に歌を口ずさんだり、身体表現を楽しんだりする児童、教師の支援を受けて、笑顔や体の動きで自分の気持ちを表現できる児童、聴覚過敏で、周囲の音や人の気配、ざわめきなどを苦手とする児童まで実態は幅広いが、音楽そのものへの興味・関心は比較的高い。4月当初は、音そのものや集団での活動が苦手な児童もあり、入室や着席することが難しい状況もあった。しかし、音楽における児童の反応を大切にして、毎時間の学習内容を構成し直し、ねらいや活動内容をしばった支援を教師全員で共通理解したことで、低学年の集団の中であっても、自分から好きな手遊びをリクエストしたり、曲を聴いて笑顔をみせたりといった自分らしさも発揮できるようになり、音楽を通してそれぞれが安心して、リラックスして過ごす場面が増えてきている。人とのやりとりを苦手とする児童もいるが、好きな音楽を介して担任以外の教師と一緒に活動したり友達の様子を見てまねをしたりといった集団ならではの良さ、音楽活動が生み出す良さもみられるようになってきた。

### (2) 題材について

・児童の音楽における興味・関心を大切にし、それぞれの発達段階を踏まえ、生活年齢を考慮しながら、共通の課題である「自分の名前を呼ばれたら反応する」「身体部位の名称を覚える」「身体模倣」「教師や友達と一緒に活動したり触れ合ったりすることに慣れる」「自分から表現する」というねらいを盛り込んで授業を構成している。  
選曲については、児童が子ども向け番組の中でよく耳にしている曲、四季を感じられる曲、動物が登場する曲、歌詞やリズムが繰り返され覚えやすい曲などを取り入れて、楽しい雰囲気の中で学習に臨むことができるようにしている。昨年度から継続している学習内容や曲も多いが、新しい児童が増えたこと、親しんだ曲でバージョンアップ(曲の速さを変える、楽器を増やし広がりをもたせる、支援を減らす、教師とペアから友達とペアに発展など)することで、新鮮かつ安心してじっくりと取り組むことができるよう配慮している。積み重ねてきた学習だからこそ、児童が自信をもって自分から活動に向かう姿、表現しようとする姿が期待できると考える。

また、選曲や支援方法に関しては、児童の興味・関心だけでなく、音楽療法士の先生からの助言を参考に、児童が子ども向け番組の中でよく耳にしている曲、四季を感じられる曲、動物が登場する曲、歌詞やリズムが繰り返され覚えやすい曲かなど、児童に適した曲であるか、支援は適切かなどの検討を行い、今後発展していける曲を系統的に取り入れるようにしている。

( 3 ) 指導に当たって以下の点に留意する。

- ・毎回の授業の流れを一定にすることで、児童が活動に見通しをもち、安心して学習に臨むことができるようにする。
- ・授業の構成を静と動で組み合わせ、着席してじっくり取り組む活動と体を動かして情動を発散できる活動を交互に行えるようにすることで、学習活動の切り替えを分かりやすくし、どの児童も自分から取り組める場面を設定する。
- ・教師は、児童の「やってみたい」という気持ちや要求・拒否を受け止め、共感的な態度で接することで児童が安心して学習に参加し、少しずつ苦手な活動にも向かう姿を引き出せるようにする。
- ・繰り返しの歌詞やメロディの曲、よく耳にする曲を選ぶことで、児童が自分で口ずさんだり、リズムをとったりと覚えやすいようにする。
- ・児童が、日頃から興味・関心が高い打楽器やミュージックパッドを用意し、自己選択できるようにする。また、その提示や配置の仕方にも配慮し、音の響きの変化を楽しむことができるようにする。
- ・教師が生伴奏することで、曲の速さや音色に変化をつけ、児童の反応を大切にしながら進行できるようにする。
- ・児童がみんなの前で発表する場面を意図的に設定することで、注目されたり、褒められたりする体験を繰り返し、意欲を高められるようにする。
- ・「はなまる」などの短い言葉をすばやく伝えたり、「頭をなでる」「拍手する」などをしたりして児童が称賛されていることが分かりやすいようにする。
- ・音楽チェックリストを使って、児童全員の実態把握や課題の整理を行い、個別の指導計画の目標の設定、手立ての見直しなどに生かす。さらに、今後音楽の授業を通して身につけて欲しいことなどのねらいをしばる。

( 4 ) 授業改善してきたこと

- ・児童の集中の妨げにならないよう、教材提示の仕方を統一（教材は使用後見えないように隠すなど）したり、提示する教材の量を徐々に少なくしたりする。また、曲のイメージを膨らませることができるよう、視覚的な教材（バック絵、ペープサート）を追加する。
- ・学習活動ごとに前に出て進行する教師が交替することで、授業にメリハリをつけ、児童の意欲を継続できるようにする。
- ・児童の最も好む身体表現（手遊び）と器楽を授業の山場に設定し、発表場面を多く取り入れることで、自分から表現しようとする気持ちや期待感を高めることができるようにする。
- ・好きな曲や楽器を介して、教師や友達とタッチしたり、一緒に楽器を鳴らしたりする場面を設定することで、日頃かわりの少ない担任以外の教師や友達と接する機会を大切にする。
- ・それぞれの学習活動における個々の児童のねらいを前時の評価シートを用いて、毎回話し合い、授業を構成し直したり、支援を修正したりしたうえで、共通理解を深め、臨機応変に対応できるよう努める。

#### 4 指導計画（総時数 時間 本時 16 / 38 ）

題材名・小単元名など	活動内容	主なねらい	時数
たのしい おんがく みんなであうたおう おどろうよ	「はじまりのうた」 ・呼名 返事 年間を通して行う。	・名前を呼ばれたら、発声または、身振りや表情で反応する。	年間
「はじまりのうた」 「からだとんとん」	「からだとんとん」 年間を通して行う。	・身体部位の名称が分かり、教師と一緒に歌詞に合わせて、身体部位に触れることに慣れる。	16/38 (本時)
「おわりのあいさつ」 年間を通して行う。	・ をとんとんしよう (足、お腹、お尻、肩などの身体部位)	・友達や教師に触れられることに慣れたり、ボディイメージを高めたりする。	

<p>手遊びと歌唱 器楽とダンス</p> <p>鑑賞とリトミック</p> <p>はそれぞれどちらか1つが学習活動となる。</p>	<p>「手遊び」(身体表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな身体表現をする。</li> <li>□ 「いとまきのうた」 「こぶたぬきつねこ」 「ぱんだうさぎこあら」 「きらきらぼし」 「大きなくりの木のしたで」 (13~17h) 「おべんとばこのうた」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽が流れている中で、教師と一緒に手足を動かしたり、曲に合わせて簡単な身体表現をまねたりして楽しむことができる。</li> </ul>	<p>16/28</p>
	<p>「うたをうたおう」(歌唱)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の歌</li> <li>・好きな歌</li> <li>「あわてんぼうのサンタクロース」</li> <li>「公園にいきましょう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季の歌やみんなが好きな歌の歌詞の一部を口ずさんで楽しんだり、発声したり、自由に体を揺らしたりして楽しむ。</li> </ul>	<p>10</p>
	<p>「がっきをならそう」(器楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ながぐつマーチ」</li> <li>「しあわせなら手をたたこう」 (13~22h)</li> <li>「おおきなたいこ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器に触れて、音色や振動を感じたり、好きな楽器を選んで自由に鳴らしたり、簡単なリズム打ちをしたりすることを楽しむ。</li> </ul>	<p>16/30</p>
	<p>「ダンス」(身体表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「世界にひとつだけの花」</li> <li>「よさこいソーラン」</li> <li>「どんぐり山のたぬきばやし」</li> <li>「クリスタルチルドレン」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の演示に注目して、振り付けの一部をまねたり、体を動かしたりする。</li> </ul>	<p>8</p>
	<p>「はらぺこあおむし」鑑賞</p> <p>「どんなおと？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型絵本を挿絵に注目して、CDのリズミカルなお話をじっくり聴くことができる。</li> <li>・身近にあるいろいろな音(踏切や電子レンジの音など)を聴き、関心をもったり、音の違いを楽しんだりする。</li> </ul>	<p>8</p> <p>6</p>
	<p>リトミック</p> <p>「ぶらぶらたいそう」 (13~38h)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ伴奏に合わせて高音階の音では早く、低音階の音ではゆっくり手を動かすことができる。</li> <li>・教師の「ぶらぶら」「ぱっ」「すとん」の合図に合わせて、手足を揺らしたり、体の力を抜いたりする。</li> </ul>	<p>16/24</p>

5 題材における児童の実態

	題材における実態	題材における目標	教師の主な支援
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな曲（童謡など）を知っていて一人でハミングしている時がある。</li> <li>・ 好きな曲が流れると、自分から手拍子をしたり飛び跳ねたりする。</li> <li>・ ミュージックパッドを好み、手で触って感触を感じたり、足踏みやジャンプをして音を鳴らしたりすることを楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽が流れていることを感じながら、教師と一緒に動いたり、教師の演示を注目したりして見て手や足を動かすことができる。</li> <li>・ 好きな楽器を選び、音楽が流れている間自由に鳴らしたり、教師の合図に合わせてリズム打ちしたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演示している教師に注目している時は、近くにいる教師は言葉がけを控え、手を添える支援のみで自分の身体に触れることができるようにする。</li> <li>・ 一人で楽器を鳴らそうとしない時には、児童と同じ楽器を正面から鳴らし、まねをして鳴らすことができるようにする。</li> <li>・ 側で教師と一緒に同じ楽器を鳴らしたり、身振りをつけながら「ドンドン」と言葉をかけたりすることで、合図に合わせて楽器を鳴らすことができるようにする。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 好きな歌の歌詞の一部を歌うことができる。</li> <li>・ 手遊びが好きで、教師の演示に注目して模倣することができる。</li> <li>・ 器楽では、手で叩く楽器や鈴を鳴らすことができる。リズムに合わせて楽器を鳴らすことは難しいが、楽器を鳴らして楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の演示を見ながら、曲に合わせて模倣をしたり、自由に手足を動かしたりして楽しむことができる。</li> <li>・ 二種類ある楽器の中から自分の好きな音の出る楽器を選んで教師と一緒に音楽が鳴っている間鳴らすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演示する教師の正面の座席にすることで、動きに注目し、教師のまねをして動くことができるようにする。</li> <li>・ 初めは、教師が手を取って一緒に楽器を鳴らしたり、自分でも鳴らすことができる位置に楽器を置いて一人でも鳴らすことができるようにする。</li> </ul>
C			
D			
E			
F			

## 6 本時の計画

### (1)本時の全体目標

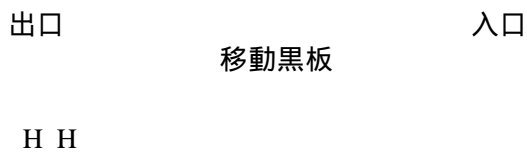
- ・「大きなくりの木の下で」の曲で、自分の頭や肩に触れるなどの簡単な身体表現をして楽しむことができる。（身体表現）
- ・「しあわせなら手をたたこう」の曲で、自分の好きな楽器を選んで自由に鳴らしたり、曲に合わせてリズム打ちをしたりして楽しむことができる。（器楽）

### (2)本時の個別目標

児童	目 標	評 価
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演示をする教師を注目して見たり曲が流れている中で、教師とやりとりをしながら体（左右に体を揺らす、手拍子する等）を動かそうとすることができる。</li> <li>・ 好きな楽器を選び、「ドンドン」という教師の合図に合わせて楽器を鳴らそうとすることができる。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲に合わせて、楽しみながら自分の肩や頭に触れることができる。</li> <li>・ 曲が鳴っている間、教師と一緒に音を出すことができる。</li> </ul>	
C		
D		
E		
F		

評価 (できた・よい) (できなかった・改善の余地あり)

### (3)配置図



学習活動によって変更あり。

### (5)評価の観点

#### < 児童 >

- (1) 教師の演示や言葉がけで、自分の身体部位（頭、肩、膝、胸）に触れたり、手足を自由に動かしたりして楽しむことができたか。
- (2) 好きな楽器を選んで、自由に鳴らしたり、教師の演示を見て「ドンドン」に合わせてリズム打ちしたりすることができたか。

#### < 教師 >

- (1) 分かりやすい演示や合図の出し方に努め、児童の「やりたい」という気持ちを引き出すことができたか。
- (2) 児童の興味関心を高め、楽しめるような教師の支援、場の設定、実態に合った教材教具の準備（楽器の精選、選曲）はできたか。

## (4)展開

時間	学習活動	全体の支援	個別の支援の方法								準備物	
			A	B	C	D	E	F	G	H		
2	1 はじめのあいさつ	・ T1が「手はおひざ、足はピタッ、背中ピン」と伝えることで、姿勢を正し、学習の始まりを意識してあいさつに向かうことができるようにする。										学習の流れ (カード)
5	2 「はじまりのうた」を歌う。 ・呼名に対し、発声やタッチなどで意思表示する。	・ 初めに、呼名する順番を確認したり「次は さんの番だよ」とT2以下が側で伝えたりすることで、見通しをもって自分の出番に向かうことができるようにする。 ・ 上手にできたときは、「はなまる」を指で描いたり、「頭をなでる」「伴奏(よくできましたのメロディ)」など児童にとって分かりやすい称賛をする。 ・ 1回ごとに音楽を区切らず、テンポよく呼名をすすめることで、児童が意欲的に自分の出番で反応することができるようにする。	・ T1は名前を呼んだらしっかり視線が合うようにしたり、手のひらを前に出して返事ができるようにする。 ・ 手拍子をしたり、肩をたたいたりしてリズムをとったり、楽しい雰囲気であう。	・ 言葉がけを控えて見守り、T1に注目して自分から発声したり、T1にタッチしたりできるようにする。							歌詞カード	
5	3 「からだどんとん」の歌に合わせて身体の部位にタッチし合う。 (1) T1の演奏を見て、曲に合わせて、ゆっくり身体の部位(3カ所)を触る。 (2) 曲の速さを早くして、もう一回行う。 (3) 友達や教師とペアになり向き合い、自分の身体の部位にタッチしたり、相手とハイタッチしたりする。	・ 最初に、身体の部位の絵カードを児童に提示し、1枚選択してもらおう。T1が「(次は) だよ」と言いながら、触る身体の部位(3カ所)を確認することで、児童が見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。 ・ 曲の速さに変化を加えることで、それぞれの児童が自分の好きな速さで、楽しめるようにする。 ・ 教師や友達と触れ合うことを楽しんだり、自分以外の人と触れ合うことに慣れることができるよう、友達や教師とペアになり、自分の体に触れたり、友達とハイタッチし合ったりする場面を設定する。	・ 身体の部位を確認する際には、T8が後ろから手をとって、身体の部位を触ることができるようにする。	・ 触れる身体の部位を伝えながら教師がタッチしたり、手を添えて一緒に行ったりすることで、楽しみながら身体に触れたり、動かしたりすることができるようにする。							絵カード	
10	4 秋の歌「大きなくりの木の 下で」の手遊びをする。 (身体表現) (1) 前にいるT2の演奏(ゆっくり)を見る。 (2) 曲の速さを変えて(普通・ゆっくり)やってみる。 (3) 前に出て、やってみたい児童、上手にできた児童が発表する。	・ 曲のイメージを膨らますことができるよう、導入部分で、ペープサートやバック絵を使用する。 ・ T2は、児童が動きに注目できるように、ゆっくり大きく手を動かして演示する。また、2人ずつの前で演示することで、よりT2の動きに注視できるようにする。 ・ 児童それぞれがもっと楽しんで手遊びできるように伴奏のテンポ(ゆっくり、普通、速い)を変えてやってみる。 ・ 児童が前に出て披露する場面を設定したりすることで、意欲を高めることができるようにする。	・ 児童の自由な動きを尊重し、支援や言葉がけを控える。リズムに合わせて手をたたいたり、声を出したりしているときには教師も一緒に同じ動きをしたり、声をまねしたりして楽しく活動できるようにする。	・ 手を添えて動きを促したり、大きな身振りで演示したりすることで、児童ができるだけ自分から模倣することができるようにする。							歌詞カード ペープサート バック絵 (大きな栗の木)	
10	5 器楽とリズムあそび 「しあわせなら手をたたこう」 (1) 歌に合わせて手拍子する。(1番のみ) (2) T3と一人ずつ「ドンドン」に合わせてタンバリンをたたいて音を出す。 (3) 楽器を使って、自由に	・ 最初にT1の演奏を見ながら曲の「ドンドン」の部分に合わせて手拍子する。T3はタンバリンを使って順番に児童が「ドンドン」に合わせてリズム打ちができるか確認する。 ・ 児童の実態に合った楽器を用意しておくことで、どの児童も好きな楽器を選んで楽器を鳴らすことを楽しむことができるようにする。 ・ 音色の違いを楽しめるように選択した楽器ごとに音を出す場面を設定する。	・ ウッドブロックの持ち手の部分に滑り止めを巻いて、持ちやすいようにする。マレットは握る	・ 手をとって一緒に鳴らしたり、鳴らす部分を強調して「ドンドン」と合図したりすることで、							歌詞カード タンバリン (教師用)  卓上ベル ハンドベル フレームドラム ウッドブロック	
		鳴らしたり、リズム打ちしたりする。	部分が短いものを準備し一人で演奏できるようにする。 ・ フレームドラムを演奏する際は、児童が打ちやす	教師の合図に合わせてリズム打ちしようとするようにする。								

			いように必要に応じて教師がフレームドラムを支える。																		
10	6	<p>自然反応動作リトミック 「ぶらぶらたいそう」</p> <p>(1) 鈴を付けて、T4の演奏を見る。</p> <p>(2) ゆっくり2つの動きをみんなで行う。</p> <p>・小さな動き(高音) 「ぶらぶら」「ぱっ」「すとん」</p> <p>・大きな動き(低音) 「ぶーらん」「ぱっ」「すとん」</p> <p>(3) 教師とローテーションでペアになり、「ぶらぶら」「ぶーらん」を交互に一緒に行う。</p>	<p>・手足に小さな鈴を付け、自分の身体を動かすことで音が鳴ることに気が付き、身体を動かす楽しさを味わうことができるようにする。</p> <p>・リラックスして自分以外の人に触れられることに慣れるよう、教師は、手に触れる前に予告したり、それぞれの児童の様子やペースに合わせて、動きをつけたりする。</p> <p>・一つ一つの動作を児童が意識できるように、教師は「ぶらぶら」「ぱっ」「すとん」と言いながら大きく、メリハリを付けて動作を行う。</p> <p>・「ぶらぶら」に合わせて手を揺らす、「すとん」に合わせて手を下ろすなどの動作で力を抜いたりできるように、力加減を調節したりタイミング良く両手を下ろしたりする。</p>	<p>・前半部分では児童の自由な動きを大切に、楽しんで活動に取り組めるように教師は見守る。演奏する際は児童の目の前で行う。「ぶらぶら」では少しゆったり、「ぱっ」「すとん」でははっきりとした口調で動きの違いが感じられるようにする。</p>	<p>・動きにメリハリをつけながら一緒に手を揺らしたり、声の出し方に変化をつけたりすることで、音の変化を感じて楽しみながら身体を動かすことができるようにする。</p>																
3	7	<p>終わりのあいさつをする。</p> <p>(1) 楽しかったこと、頑張ったことをみんなの前で発表する。</p> <p>(2) 「終わりのうた」を歌う。</p> <p>(3) 終わりのあいさつをする。</p>	<p>・今日の音楽の時間に楽しかったこと、頑張ったことを児童が発表する場面を設定したり、次時の学習内容を伝えることで、本時を振り返ったり、次時への期待感を高める。</p>																		